



# みちくさ

2015.6.17 No.6

## 修学旅行が終わりました

6年生の修学旅行が無事に終わりました。小学校生活の中でも、一番の思い出として残る行事です。一緒に付き添いをしていて、いろいろ考えたことがありました。少しだけ紹介したいと思います。

## 会津藩校日新館にて座禅体験

初日夕方近くに、日新館で座禅体験を行いました。まず和尚さん（もちろん本物の方）がいらっしやって、子どもたちに感謝の気持ちをもつことや我慢することなど、心を鍛えていくことについてのお話をしていただきました。その後、座禅に入ったのですが、ご存じの通り、座禅の際には、姿勢が乱れたり、心の迷いが生じたりした時に、警策（きょうさく/けいさく）といって、肩を木の棒で打ち据えられます。場合によっては自分から心を鍛えていただくために、自ら頭を垂れて打たれる場合もあるのです。和尚さんから、「心を鍛えて欲しい人は、回っていった時に、自分から頭を垂れて合掌しなさい」と指示されたところ、なんと、ほとんどの子どもが自らその姿勢になるではありませんか。和尚さんも本気で警策を行いました。終わったときには、ふらふらになっていました。なんと素直な子どもたちだろうと、呆れるのを通り越して、感動してしまいました。



座禅に臨んだ新鮮な気持ちを、いつまでも忘れないでいて欲しいなと思いました。

## 昔は荒城の月を…



付き添いをしていてそういえばと思い出したことがあります。前に勤めた時には、6年生を2回受け持っています。もちろん修学旅行も会津若松市でした。実は鶴ヶ城の敷地の中に、「荒城の月」の碑があるのです。戊辰戦争でずたずたになり、その後明治になって取り壊されたお城は、まさに荒城と呼べるそのものの雰囲気醸し出していたのかもしれない。土井晩翠つながり？で、毎年修学旅行に行く前に、

「荒城の月」を2部合唱で歌えるようにし、実際、鶴ヶ城を訪ねて、碑の前で歌を披露していました。いっぱい観光客がいる中で、堂々と合唱する姿も、なかなか圧巻でした。今回も鶴ヶ城を見学し、そういえばと思い出したところでした。前よりもずいぶんお城の周りがきれいに整備されたなと思いました。

## そういえば夏山登山というのもありました

20年ほど前には、6年生だけ夏山登山というのがありました。これが今思うと大変不思議なものでした。学校行事の扱いではないのです。ですから子どもたちは悉皆の参加ではないのですが、ほぼ全員子どもたちは参加しました。8月に入ってすぐの夏休みに行われました。教育課程に位置づけられた行事ではないので、出席扱いになるわけでもなく、そして我々教員も代休をもらえるわけでもなく、全く不思議な行事でした。

宮城蔵王のお釜付近までバスで行き、その後、山を縦走して山形側の地蔵山頂まで進みます。距離にして3キロもないと思いますが、夏山なのでかなり過酷でした。へとへとになって、その日は蔵王温泉に宿泊します。次の日は、スキー場のゲレンデなどを使い、オリエンテーリングなどをしました。

2回目に6年生を受け持ったときには、さすがに県境を縦走するのはハードなので、山形側の蔵王温泉街から、ドッコ沼まで登りました。(これもけっこうハードでしたが)20年ぶりで戻ってみると、すっかりこの活動は消えていました。ほっとした反面、ちょっぴり残念な気持ちも…。

今年の座禅体験にもつながるような、心と体を鍛えるという意味をもっていたのかもしれないね。

## 修学旅行の語源は行軍旅行だった

修学旅行という言葉が使われたのは、明治までさかのぼるようです。師範学校の教育の中に、軍隊式の要素を導入しようとした国の動きに抵抗し、研修の意味合いを盛り込み、「修学」という言葉を使ったとか。今回の旅行でも、一日目には自主研修で会津若松市内を子どもたちがいろいろ回りました。この時期は、仙台市からもたくさんの学校が行くので、行く先々でかち合うこともめずらしくないのですが、今回は大変空いていてラッキーでした。初めて回る町並みでは地図だけが頼りです。地図を使って町を歩くという体験もしていなかったのか、なかなか新鮮だったと思います。NHKで「ぶらタモリ」の新しいシリーズが始まっていますが、町を探検しながら歩くというのは、とってもどきどきで楽しいものです。こういう楽しみを子どもたちにも知って欲しいなと思いました。



写真は、初日の私の自主研修の成果？です。おいしいわっぱ飯の店見つけ、堪能いたしました。